

令和7年度第2回地域医療構想調整会議の 協議結果

神奈川県健康医療局保健医療部医療企画課

2025.12.17

1 令和7年度第2回地域医療構想調整会議の概要

開催状況 (12/17時点)

川崎地域以外の7地域で開催済。
※ 川崎地域は12/22に開催予定。

地域名	開催日
• 横浜	11月25日
• 川崎	12月22日
• 相模原	12月8日
• 横須賀・三浦	12月10日
• 湘南東部	12月2日
• 湘南西部	12月8日
• 県央	11月12日
• 県西	12月16日

主な議題

1 議事

(1) 新たな地域医療構想の策定に向けて (現行の地域医療構想の振り返り)

- (i) 地域包括ケアシステムの推進に向けた在宅医療の充実
- (ii) 将来の医療提供体制を支える医療従事者の確保・養成

2 報告

- (1) 地域医療構想の取組の推進に向けた調査について
- (2) かかりつけ医機能報告について
- (3) 医師偏在是正に向けた総合的な対策パッケージについて
- (4) 病院の事業承継に伴う病床の取扱いについて
- (5) 令和7年度病床整備事前協議について
- (6) 医療介護総合確保促進法に基づく令和7年度神奈川県計画（医療分）策定の概要について
- (7) 病院の経営危機に対する共同メッセージについて

※ 以下の事項は一部地域のみ報告

- (1) 湘南記念病院について（横須賀・三浦）
- (2) 救命救急センター新規指定に係る委員意見について（川崎）
- (3) WG結果概要報告（横浜、県央、県西）

2 在宅医療の充実に関する主なご意見

- 現行の地域医療構想の振り返り（地域包括ケアシステムの推進に向けた在宅医療の充実）に関して、委員から主にいただいた意見は以下のとおり。
 - **地域が答えを出すという意識を持つことが必要。会議体も医療・介護等の多様な職種の参画が必要**で、メガ在宅の先生等も入れることが出来ないか。
 - 小児在宅を担える小児科医が少なく内科医が行うケースがある。
 - 医療機関が「効率的に」患者を受け入れることができる体制整備が必要と言われるが、医療DXの導入等は簡単には進められない。
 - **在宅の人材を育成していくのか、大きな施設に人を集めていくのかしっかり考えてる必要がある。全てやるのは非現実的で厳しいため、どこを目指していくのか行政側でも考えていくべき。**
 - R6診療報酬改定で支援が強化されたため、介護施設でも在宅医療で貢献できる部分はある。

3 医療従事者の確保・養成に関する主なご意見

- 現行の地域医療構想の振り返り（将来の医療提供体制を支える医療従事者の確保・養成）に関して、委員から主にいただいた意見は以下のとおり。
 - 偏在と言ってもいろいろある。偏在をきちんと評価し、「見える化」することが大事
 - **介護職の人材不足も深刻化**。去年から減少局面に入っている。
 - **看護職員の確保も、看護専門学校が定員割れになるなど厳しい。医者がいても看護師がいない。看護師の復職支援や幅広い働き方を取り入れていく必要がある。**
 - 不適切な訪問看護の問題は今後の課題。
 - **在宅医療の推進も重要だが、そちらに看護師等の人材を取られると病院側は苦しくなる。**
訪問診療や訪問看護を進めることも大事だが、そうすると医療機関から人がいなくなることも留意する必要がある。施設と在宅のバランスを考える必要がある。
 - **今よりも人がいなくなってくることを前提に施策をよく考えた方がよい。**

説明は以上です。

※ なお、令和7年度第2回地域医療構想調整会議の議事録及び説明資料につきましては、後日、神奈川県ホームページで掲載予定です。

(参考) 『地域医療構想ポータルサイト』

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/f6z/cnt/f533059/index.html>

